



# UNIC Tokyo Dateline UN

November 2002 Vol.36

国際連合広報センター

## 2003 年度 国連機関 共同アピール (CAP) 実施される



**The CAP is  
more than an appeal,  
it's a process to**

- plan a common humanitarian strategy
- set priorities
- work together efficiently
- co-ordinate humanitarian efforts
- maximise limited resources



**And, it is more than  
the UN**

The process includes  
the Red Cross Movement,  
Non-Governmental Organisations  
and other humanitarian partners

CONSOLIDATED INTER-AGENCY APPEALS 2003



国連機関共同アピール(Consolidated Inter-Agency Appeals: CAP)とは、紛争や自然災害などの被害を受けた地域に対する人道支援の必要性を国際社会に訴える国連と関連機関の活動を意味します

← UN ハウスのウ・タント国際会議場で行われた「2003 年度国連機関共同アピール」

## WFP 事務局長が UN ハウスで支援要請～

紛争や自然災害など、緊急事態の被害を受けて困窮状態にある人々への人道支援の大切さを訴えるため、国連と関係諸機関が共同で行う「国連機関共同アピール」が 11 月 19 日、20 日の 2 日間にわたり、世界 8 都市で開催されました。共同アピールは、世界中で困窮状態にある 5,000 万人の人々を救うためには、2003 年には 30 万ドルが必要だとしており、国連加盟各国に資金提供を呼びかけました。

東京・渋谷の UN ハウス（国連大学ビル）の 3 階ウ・タント国際会議場で行われた「東京アピール」では、ジェームス・モリス世界食糧計画（WFP）事務局長が「南部アフリカ」に焦点をあてた緊急支援要請を行い、NGO、メディア、国連諸機関や一般参加者らが熱心に耳を傾けました。

## INSIDE

2003 年国連機関共同アピール	
東京アピール・報告	2-3
東京アピール（南部アフリカ地域）	4-5
新・管理担当事務次長 キヤサリン・バーティー二氏 略歴	5
国連ガイドツアーアイデア発足 50 周年	6-7

<http://www.unic.or.jp/>

# 国連機関共同アピール

## 未来への希望

### －明日の自立を支える人道援助－

～東京アピールは南部アフリカを焦点に～

2003年度国連機関共同アピールは世界8つの主要都市で実施されました。11月19日にルイス・フレシェット国連副事務総長が9月に国連加盟したスイスの首都・ベルンで緊急アピールを行ったのを受け、ワシントンではマロック・ブラウン国連開発計画(UNDP)総裁、ブリュッセルではセルジオ・デメロ国連人権高等弁務官(UNHCHR)、ルクセンブルクではフランシス・デン国内避難民問題担当事務総長代表、ニューヨークではトライ・オベイド国連人口基金(UNFPA)事務局長とキャロリン・マカスキー緊急援助副調整官(OCHA)が、また翌20日には、ハーグでルドルフス・ルベルス国連難民高等弁務官(UNHCR)、キャンベラで大島賢三緊急援助調整官および人道問題担当事務次長、そして東京ではジェームス・モリス世界食糧計画(WFP)事務局長が各々アピールを行いました。

東京・渋谷のUNハウスで行われた「東京アピール」にはNGO、メディア、国連諸機関や一般の参加者など約330名がつめかけました。プログラムは「2003年度共同アピール」とパネル・ディスカッションの二部構成で行われました。

まず共同アピールに先立って、日本政府を代表して茂木敏充外務副大臣が挨拶をし、アピールの意義につ



いて、「今そこで苦しみにあえいでいる人たちがいることに思いを馳せる必要がある」と述べ、日本がリーダーシップを発揮していきたいと語りました。

続いてモリスWFP事務局長が国連共同アピールの主旨を説明するとともに、南部アフリカ諸国に焦点をあてた東京アピールによって、国連加盟各国が人道支援のため資金提供に協力するよう訴えました(4頁参照)。

第2部のパネル・ディスカッションは「未来への希望—明日の自立を支える人道援助」をテーマに、5人のパネリストを迎え、道傳愛子NHKアナウンサーの司会のもと、活発な発言が相次ぎました。

ジュディス・ルイス南部アフリカ地域国連人道支援調整官は、現地の実状を詳細に報告した上で、女子や妊産婦

への優先援助と、アフリカ全体で400万人にのぼる孤児に対する長期的な支援の必要性を特に強調しました。そして、国連、NGO、各 government が包括的な対策をとることが重要であるとし、具体例として、学校を単なる学習の場としてだけでなく食糧の配給ポイント、あるいは菜園として利用することなどを紹介しました。

次いで、**あづまひさお** 東久雄国際協力事業団副総裁は日本政府のアフリカ支援策として注目を集めている「TICAD(アフリカ開発会議)」について述べました。東氏は、貧困削減がもっとも緊急かつ重要な課題であるとし、その対策としてかつて日本が経験した「小農中心の農村開発」をあげ、アフリカ米とアジア米による混合種の開発など、日本の米生産技術を含めたさまざまな技術提供が有効であると述べました。

日本赤十字九州国際看護大学の喜多悦子教授は、食糧不足によって生じる栄養不足がマラリア、コレラ、結核などの蔓延につながっているアフリカの現状を指摘するとともに、HIV／エイズによる青・壮年層の高い死亡率が経済的・社会的貧困を招いていると述べました。アフリカ支援にあたっては、各機関が役割分担を認識して援助に無駄を出さないこ

国連機関共同  
アピール  
会場から



とや、長期にわたって必要性を訴え続けることの大切さを強調しました。

次いで、ワールドビジョン・ジャパン海外事業部長を務める高瀬一使途氏が、NGOの代表として現場の声を紹介しました。高瀬氏は途上国の女子の就学率が極めて低いと述べ、「すべてのプロジェクトで、女子・女性が男性と同じように支援を受けられるよう努力すること」が目標であるとしました。同時に、日本人向けの「開発教育」も大きな課題であると述べ、長期にわたる支援者を日本人のなかに増やしていくことが重要であると語りました。

日本経済新聞・編集委員の原田勝広氏はジャーナリストの視点から発言しました。貧困・飢餓報道が少ないとされる点について原田氏は、情報化時代は報道が一過性になりがちであると説明し、各国のガバナンスなど貧困の背景にある原因を深く掘り下げるこ

- 1) 右からジェームス・モリス WFP事務局長、茂木敏充外務副大臣、ハンス・ファン・シンケル UNU学長
- 2) パネリストの方々
- 3) 会場となったUNハウスでは、各国連機関による関連資料の配布が行われた

との難しさをあげました。また今後の課題として、NGO、大学、財団、メディアなどが各々のもつリソースを結集させて人道支援を考えていくことが必要だと語り、これまでの「復興・救援」という枠を超えた努力が必要だと述べました。

パネル・ディスカッション終了後には、参加者から熱心な質問が相次ぎました。「日本、日本人に求められるもの」を問われたパネリストたちは、「世界の国々がODAを増額していくなかで、日本は逆方向を向いている。国民の理解を求めていきたい(東氏)」、「遠いアフリカの話ではなく、地球の一員として緊急事態をどう解決していくか考えるべき(喜多氏)」、「途上国は(援助の)受益者としてのコミットメントが求められる(高瀬氏)」、「NGOが官と協力していくこと、日本が変わることが大切(原田氏)」と語り、東京アピールは活気あふれる中、終了しました。

## 2003年度国連機関共同アピール ～事務総長に代わる報道官声明～

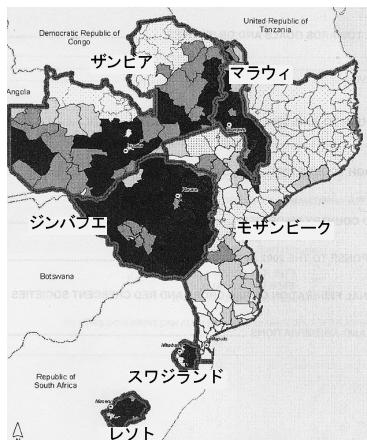
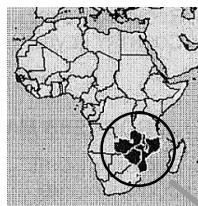
2002年11月19日

2003年度国連機関共同アピールは、紛争、自然災害およびその他緊急事態の被災者5,000万人に対し、食糧、シェルター、医薬品およびその他の救命援助を提供するため、30万ドルの拠出要請を行っています。

今年のアピールの対象となる国と地域はアフガニスタン、アンゴラ、ブルンジ、コートジボワール、朝鮮民主主義人民共和国、コンゴ民主共和国、エリトリア、エチオピア、ギニア、インドネシア、リベリア、シエラレオネ、ソマリア、南部アフリカ諸国、スーダン、タジキスタン、ウガンダ、チェチェンおよび隣接共和国(ロシア連邦)、ならびに、パレスチナ占領地域です。

これらの場所ではすべて、広範な暴力や人命の損失、長引く干ばつ、大量の避難民、経済活動の混乱、および、広範にわたるインフラの損害が生じているため、人道支援の必要性が特に高まっています。このような荒廃と絶望には、大規模な多面的の人道援助をおいて他に取り組むべき術がありません。

コフィー・アナン国連事務総長は国際社会に対し、これらすべてのアピールを全面的に支持するよう呼びかけています。アナン事務総長は援助国に対し、必要性に基づき、国および地域間での援助の公平な配分を確保すべく、寛大な拠出を強く求めています。また同氏は、人々が直面する苦難からのがれるだけでなく、全面的な復興、開発および通常の生活の回復を期待できるように、紛争およびその他の危機の根本原因に取り組む努力をさらに強化するよう要請しています。



## 背景

南部アフリカ地域では、異常気象による干ばつが長期化する一方で、HIV／エイズの蔓延や、政府の失政などが地域に致命的な危機をもたらしています。レソト、マラウイ、モザンビーク、スワジランド、ザンビア、ジンバブエにおいて1,440万人におよぶ命が危険な状態に陥っており、南部アフリカ地域は人道的危機に直面しています。

現在、私たちが直面している状況は、人道問題のパラダイムに突き付けられた厳しい挑戦であり、従来とは異なる、的確な行動が要求されています。かつてのような人道的支援の方法では、南部アフリカにおいて有効な解決策にはならず、今日の南部アフリカにおいて必要とされる対応は、純粋な緊急支援でもなければ開発支援でもありません。南部アフリカにおける人道支援の目標は、持続的な発展の基礎を築くことになり、緊急支援計画を、長期的な開発目標の取り組みと連結させる必要があります。

## 危機の具体的状況

- \* 1,440万人の人々が食糧不足と生計の危険に脅かされ、食糧支援なしでは極度な栄養不足に陥るか、死に至りかねない状況です。これは、2002年5月に世界食糧計画（WFP）と食料農業機関（FAO）が行った調査によって推測された、食糧支援対象者の数に比べて12.5%増えたことになります。

- \* HIV／エイズの蔓延がすでに低下した人間の耐久力を

# South Africa Region

## 国連機関共同アピール（CAP）2003 南部アフリカ地域

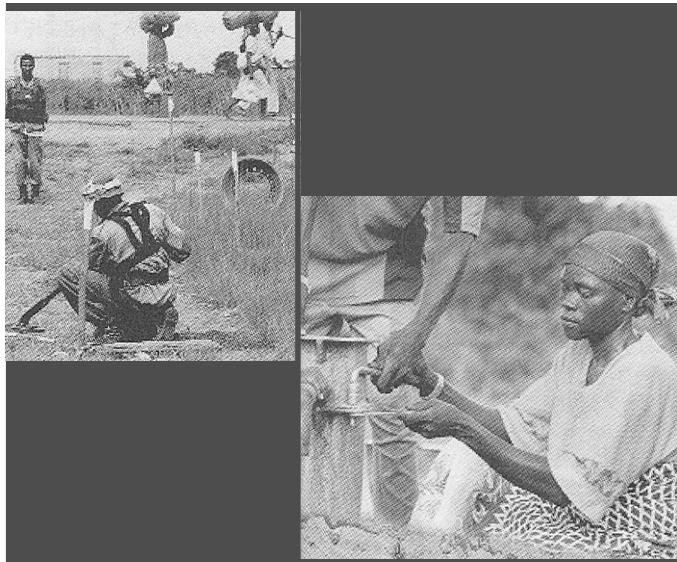
も奪い、危機を更に悪化させています。成人における感染率は、一番低いモザンビークでも12%、最も高いジンバブエは34%となっており、6カ国の平均は24%に及んでいます。HIV／エイズの蔓延が働き盛りの世代を脅かし、この地域に何百万人もの孤児を生んでいます。

- \* HIV／エイズの蔓延によって、南部アフリカ全域において400万人の子どもがすでに孤児となっており、子どもが稼ぎ手となる家庭が増加しています。彼らは、HIV／エイズに感染した親の看病をするために学校にも行けず、家に留まって働くを得ないのであります。また、生きていこうために街に出た子どもたちは、過酷な労働に就かれるなど様々な形で虐待されることになり、より一層脆弱な立場に置かれています。

## 目標

2003年度の南部アフリカにおける人道支援活動の目標は、最も脆弱な人々に対する緊急人道支援が確実に達成され、かつ地域の持続的な復興の枠組みを打ち出すことです。

南アフリカにおける危機は、食糧援助だけで解決できる単なる食糧危機ではありません。今日の南部アフリカにおいて、食糧以外の分野に関する支援も、食糧支援と同様に重要です。従って、表面に現れやすい短期的な事態の結末よりも、むしろ危機の根本的原因の解決に焦点を当てた多角的な対応こそが、事態打開への道となり、長期的視野から見て最も有効です。



## 実施戦略

2002年7月、南部アフリカに対する人道支援が開始された際に、必要とされる支援を効果的にするため、人道支援機関が連携して支援に当たることが取り決められました。その際、南部アフリカ支援に向けて4つの戦略が立てられました。

### 1) 地域の連携体制と情報収集の強化

南部アフリカ地域人道問題調整官の統括のもと、ヨハネスブルクに設立された地域機関合同支援事務所で対策を行う。

### 2) 地域のロジスティック調整機関(ReLogs)の設立

後方支援活動を円滑にするため、WFPの南部アフリカ危機対策活動(EMOP10200)と連携して、南部アフリカの地域管理とロジスティックス調整のための機関が2002年6月に設立された。

### 3) 穀物などの不足に対し、正確かつより早い情報を確保し、迅速に対処、その影響を軽減する

南部アフリカ開発脆弱度調査委員会によって行われた2002年9月の最初の包括的、多角的な調査によって、援助対象者の絞り込みを有効に行なうことができ、調査活動の重要性を示している。

### 4) 持続可能な復興のための構想を打ち出す

この地域における持続可能な復興のための構想は、危機の構造的原因をより深く分析することによって初めて可能となる。

## 管理担当事務次長 キャサリン・バーティーニ氏 略歴

コフィー・アナン国連事務総長は2002年11月12日、新しい管理担当事務次長に、米国のキャサリン・バーティーニ氏を任命しました。バーティーニ氏はジョセフ・コナーフィー氏を引継ぎ、2003年1月1日に同職に就任します。



バーティーニ氏（左）を任命するアナン国連事務総長

バーティーニ氏は10年間にわたり、世界最大の国際人道機関である、国連の世界食糧計画(WFP)の事務局長を務めました。WFPは2001年、総勢8,000人を超えるスタッフを通じて、82カ国での7,700万人の人々に食糧援助を行いました。

バーティーニ氏はアフリカ、アジア、ラテンアメリカ、中東、および、東欧と旧ソ連の一部で、戦争と自然災害の被災者となった何億人の人々を援助した実績をもちます。同氏は特に、北朝鮮での飢餓終結や、2001年の大量の緊急食糧援助配給によるアフガニスタンでの飢餓回避、ボスニアとコソボでの危機に際する食糧物資提供の確保、および、2000年に「アフリカの角(アフリカ北東部)」で1,600万人が危機に瀕した大量飢餓の回避に向けた取組みにより、幅広い称賛を受けています。

バーティーニ氏は4カ国7大学から名誉博士号を取得しています。2002年、同氏はイタリア共和国からメリット勳章(Order of Merit)を授与されたほか、アフリカ・ジャーナリスト協会からも優秀賞(Prize of Excellence)を受賞しました。ロンドンのタイムズ誌は1996年、同氏を「世界でもっとも影響力のある女性」の一人に数えました。

バーティーニ氏は1950年、米国生まれ。1971年にニューヨーク州立大学オールバニー校から政治学士号を取得。同氏と夫でフリーの写真家、トム・ハスケル氏はニューヨーク州コートランド在住。バーティーニ氏はコミュニティの楽団でクラリネット奏者を務めています。



活躍するガイドたち：

上) 2000年の世界宗教者会議で

右) ダグ・ハマーショルド第2代国連事務総長と



# 国連本部ガイド・ツアー 発足から50周年

コフィー・アナン事務総長は11月6日、「国連ガイド・ツアー」が50周年を迎えるに当たりお祝いのメッセージを発表しました。

ニューヨーク国連本部でのガイドツアーが始まったのは1952年。以来、50年にわたり、国連本部では世界各地から訪れる人々に建物の歴史と特徴について案内するとともに、国連の果たす役割と重要性を説明しています。

「国際連合へようこそ。私の名前はコフィー・アナン。ガーナ出身です。きょうは皆様のガイドを務めさせていただきます。」

私はいつも、このあいさつがしたいと思っていました。しかし、過去50年間にわたり、国連を何百万人もの人々に紹介してきたツアー・ガイドたちの能力に比べれば、私など足元にも及ばないでしょう。

ツアー・ガイドは国連の友好的な顔として、世界各地からの訪問者を温かく迎えています。多くの言葉を話せることはもちろん、豊富な知識と意欲も備えています。

ツアー・ガイドたちは、毎日、20カ国語のうちのいずれかで、平均3万語の言葉を話しています。合計すると、毎年ほぼ50万人の見学者に国連の案内をしていることになります。

ツアー・ガイドは訪れる見学者に、この画期的な建物の歴史と特徴について話します。

しかし、さらに大事なこととして、かれらは国連が実際に何をしているか、そして、それがなぜ重要なのかを説明しています。



アナン事務総長と握手をするツアーガイド

ツアー・ガイドは、どのような質問にも一時には回答が不可能な質問にも一答えなければなりません。20人ほどの人々を前にして、なぜ人間は戦争をするのか、総会議場には何頭の恐竜が入れるのか、などといった子どもたちからの質問に答えなければならない姿を想像してみてください。

それでも、ツアー・ガイドは常に、私たちも見習うべき礼儀正しさ、落ち着き、そして冷静さをもって、質問に答えているのです。

国連が、国連憲章に記載されている「われら人民」に対して開かれた存在となっているのは、まさにツアー・ガイドの方々のおかげなのです。

昨年の(9月11日の)出来事以来、私たちが生きる不穏な時代では、国

連ビルに対するアクセスを制限しようとする誘惑も生じかねません。

それでも私はあえて、こうした不透明な時代だからこそ、世界中の人々がここを訪れ、国連の活動と原則について学ぶことがさらに重要なのだと主張したいと思います。国連が世界の人々の組織だということ、国連が人々のために、そして、それに続く世代のために活動しているということを理解できる最善の方法は、これ以外にありません。

今年は国連ビルが建設されてから50周年にあたることも思い起こしましょう。50歳を迎えた国連本部は、時の試練、スタイルの変化、そして技術の変革にもちこたえてきたのです。

私たちはこれからも、ずっとそうありたいと考えています。国連ビルが健全に機能し続け、今日のような記念日を何度も迎えられるように、大規模な改修工事を提案している理由は、まさにここにあるのです。

過去、現在、未来のツアー・ガイドの方々に対し、私は「50周年おめでとう。そして、国連で働くすべての仲間から、ありがとう」の言葉を贈りたいと思います。

## 国連ガイド・ツアーの歴史



初期のガイド・ツアー風景 (1955年)

ニューヨーク国連本部でのガイド・ツアーが始まったのは1952年です。1955年までは、国連協会が10人のガイドを雇い、運営していましたが、その後、ガイド・ツアーは国連広報局に

引き継がれました。国連本部は当時のニューヨークに新しいビル群として加わり、エンパイアステートビル、自由の女神、ロックフェラー・センターとともに、人気観光スポットとなりました。

20-30歳の女性たちだけで始まったツアーガイドに1977年、初めて男性が加わり、現在では、ガイドの約4分の1が男性となっています。

## ユニフォームの歴史

国連のツアーガイドが着た制服のほとんどは、国際的に有名なデザイナーによって作られました。1950年代のフライトアテンダントが着た制服をもとに、ツアーガイドの最初の制服が作されました。

1977年には、ハリウッドのデザイナー、イーディス・ヘッドが新しい制服のデザインをし【写真右上】、国連に寄付をました。1982年には、フランスのデザイナー、クリスチャン・ディオールが【写真右下】、また1988年には、イタリアのデザイン会社、ベネトンが新たな制服を寄贈しています。イタリアのデザイン会社、モンドリアンがデザインし提供した現在の制服は、クラシックな優雅さと多様性、そして着易さを持ち合わせており、マタニティドレスも初めて導入されました。また

ガイドは、制服の代わりに自国の服を着ることができます。

このようにユニフォームを通じ、ガイドツアーにたくさんの色彩が加わり、多様性が生まれるのでです。



民族衣装姿のツアーガイド



国連ツアーガイドの制服

## 何が見学できるの？



スペイン人画家サネットィの作品の前で説明をする日本人ツアーガイド

ニューヨークの国連本部のガイドツアーは、国連に関する簡単な説明で始まります。ツアーの主要な見学先は、会議ビル内の安保理、信託統治理事会、経済社会理事会の各議場です。

ツアー中、会議の様子を見る機会もあるかもしれません。国連本部では、年間平均5,000を数える公式会合が開かれています（一部の理事会議場は非公開）。ツアーでは、各理事会の機能や構成、現在の活動、国連システムについての説明があります。

平和維持活動、非植民地化、軍縮問題に関する展示、加盟国が寄贈した芸術品、タペストリー、壁画、モザイク画、彫刻もみることができます。最終見学先は、国連本部内で最も大きく、またよく知られている総会ホールです。

## 国連ツアーガイドになるには？



訓練を受けるツアーガイドたち

国連ツアーガイドたちは、毎日、国連本部を訪れる人々と直に接することから、「一般の人々とつながる国連大使」と呼ばれます。ガイドたちは、国連の活動に対する人々の認識を形成するうえで、重要な役割を演じます。ガイドたちは、多様な背景をもち、国際問題について強い関心を抱いて世界から集まった若者です。

国連ツアーガイドになるには、英語と、もうひとつの言語に堪能であることが必要です。大学卒業資格と、パブリック・スピーチの技能が求められます。採用後、集中訓練を受け、国連の歴史、国連主要機関の機能や国連システムの活動について学びます。

## Information

国連ガイドによるツアーは毎日行われます（1月と2月の週末を除く）。スケジュールは変わることがありますので、事前に（1-212）963-8687へ確認することをお勧めします。日本語ツアーのお問い合わせは（1-212）963-7539へどうぞ。詳しい情報は <http://www.unic.or.jp/know/tours/> をご覧下さい。

# オノ・ヨーコさん、平和構築に貢献



故ジョン・レノン夫人才オノ・ヨーコさんが「レノン・オノ平和のための助成プログラム」を発足し、中東の和平実現に貢献しているイスラエル人とパレスチナ人のアーティスト2人に総額5万ドルを贈りました。この助成プログラムは、平和的対話を促進すること、また政治を超越して相互理解を築くことに、アートの持つ力を役立てることを目的にしています。

← 左から、イスラエル人アーティストのゴールド斯坦氏、オノ・ヨーコ氏、  
アナン国連事務総長、パレスチナ人アーティストのラバー氏



## 「世界百名山・国連切手展」

2003年1月10日まで開催中

国連郵政部(UNPA)は今年、イタリアの世界遺産をテーマにした国連切手を発行しました。国連切手のモチーフに世界遺産が採用されるのは今回で8度目です。イタリア世界遺産シリーズとして「フィレンツェ歴史地区」、「アマルフィ海岸」、「ピサのドュオモ広場」、「エオーリエ諸島」、「ポンペイと周辺の遺跡」、「ローマ歴史地区」の6種類がデザインに使用されました。

「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」が採択されたのは、1972年のユネスコ総会でした。加盟国は、人類全体にとって優れて普遍的な価値を持つ国内の自然遺産と文化遺産を保護・保全する義務を持ち、これまでに160カ国以上がこの条約を批准しています。イタリアは2001年12月の時点で35の世界遺産を保有しており、その中から6件の遺産が、今回の国連切手のデザインとして選ばれました。

遺産は私たちが過去から受け継ぎ、未来の世代に受け渡す財産です。文化遺産と自然遺産は共に、他の何物にも取り替えることは出来ません。かけがえのない地球の宝物を守るために、私たちに何ができるか考えていきたいものです。

UNギャラリーでは現在、「世界百名山・国連切手展」を開催しています。これらの世界遺産シリーズをはじめ、様々な国連切手は、UNギャラリー1階にて購入可能です。



上から、「フィレンツェ歴史地区」「ローマ歴史地区」「ポンペイと周辺の遺跡」をデザインした国連切手



発行：国際連合広報センター

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 UN ハウス 8階

TEL: 03-5467-4451

FAX: 03-5467-4455

URL: <http://www.unic.or.jp> / E-mail: [unic@untokyo.jp](mailto:unic@untokyo.jp)